

令和6年度 佐賀県 英語教育改善プラン

授業における児童の英語による言語活動の充実を図る。

○授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5 : 85.0% ⇒ R6 : 95.0%)

児童の「コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力」を育成する。

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」の「設定」「公表」「達成状況の把握」が100%になった。
「設定」
(R4 : 100% ⇒ R5 : 100%)
「公表」
(R4 : 30.6% ⇒ R5 : 100%)
「達成状況の把握」
(R4 : 90.6% ⇒ R5 : 100%)

未だ改善が必要な点

- ①授業中、児童が50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加したが、全国平均94.4%と比較して9.4ポイント低い。
(R4:82.2% ⇒ R5:85.0%)
②ALTの参画の数値が増加したが、全国平均と比べて低い。
例「児童のやり取りの相手にALTが参画した学校」は、全国平均98.1%で8.1ポイント低い。
(R4:87.5% ⇒ R5:90.0%)

2. 要因分析

①「CAN-DOリスト」の活用については、必ず実施するように研修会等で指導を行った。特に、「公表」については改善が見られ、児童や保護者に学習到達目標を示し、実際に活用することを教師が意識するようになった。

①英語専科指導の教員配置校の割合は約69%であり、その場合、授業で英語による言語活動が行われていると考えるが、担任が英語の授業を指導する場合は、言語活動の充実個人差があると考えられる。

②ALTとの打合せの時間が十分にとることができず、また、教師もALTの活用方法や協働の在り方に理解が十分でない状況も考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「CAN-DOリスト活用」の推進
・「CAN-DOリスト」の「設定」「公表」「達成状況の把握」を引き続き100%とするため、研修会等で周知を行う。
・「CAN-DOリスト」に基づいたパフォーマンステスト事例集を活用して、児童の評価に役立てる。

①小学校・中学校英語指導力等向上研修の実施
・小中連携の視点をもった授業づくりの演習を通して、外国語担当教師が単元づくりや言語活動について理解を深められるようにする。

①②英語専科教員を対象にした研修の実施
・講師による講義や協議を通して、参加者が言語活動を通じた指導やALTとの効果的なTTなどについて理解を深められるようにする。また、ALTとの打合せ時間の確保や活用の在り方等について、情報交換を行い、指導の改善に生かす。英語専科教員は地域の中核となり、研修内容や実践を域内で共有する。

①小学校におけるデジタル教科書を活用した授業動画の配信
・SAGA Eコネクに掲載し、研修に役立てられるようにする。

①一定の英語力を有する小学校教師の新規採用の推進
・採用率は、R2年度9.5%、R3年度11%、R4年度13%、R5年度5.2%だった。今後も、採用時に特別選考の枠を設けて、英語力がある教員の採用を推進していく。

令和6年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

授業における生徒の英語による言語活動の充実を図る。

○授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5: 59.5% ⇒ R6: 80.0%)

生徒の「コミュニケーションを図る資質・能力」を高める。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 30.1% ⇒ R6: 50.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」の「公表」
(R4: 55.1% ⇒ R5: 98.9%)
及び「達成状況の把握」
(R4: 82.0% ⇒ R5: 98.9%)
が改善した。
- ②小学校と連携している中学校の割合
(R4: 60.7% ⇒ R5: 70.5%)
及び小学校と情報交換を実施している
中学校の割合
(R4: 50.6% ⇒ R5: 67.0%)
が増加した。

未だ改善が必要な点

- ①授業中、生徒が50%以上の時間、
英語による言語活動を行っている学校
の割合が減少した (全国比 - 15.6ポ
イント)。
(R4: 59.8% ⇒ R5: 59.5%)
- ②教師が、発話の50%以上を英語で
行っている学校の割合が減少した (全
国比 - 21.1ポイント)。
(R4: 57.2% ⇒ R5: 47.3%)
- ③ R5全国学力・学習状況調査の教科
調査の結果から、生徒の英語力に
課題が見られた。
(R5平均正答率 県: 39.0
全国: 45.6)

2. 要因分析

- ①「CAN-DOリスト」の活用について
は、必ず実施するように研修会等で
指導を行った。
- ②R5年度より小学校・中学校英語
指導力等向上研修を行った。同校区
の担当で、小中連携の視点をもっ
て、単元づくりを行った (R5年度 佐
城地区)。

- ①単元ゴールの言語活動を達成する
ための各時間の言語活動を設定など、
生徒が主体的に学習に取り組むこと
ができる授業づくりが必要である。
- ②教師は、言語活動中心の授業を
行うとともに、英語で教える指導技術
を向上させる必要がある。
- ③生徒が個々の目標や学習課題に
応じて学習に取り組むことができる環
境づくりが必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「CAN-DOリスト活用」の推進
 - ・「CAN-DOリスト」の「設定」「公表」「達成状況の把握」を100%
とするため、研修会等で周知を行う。
 - ・「CAN-DOリスト」に基づいたパフォーマンステスト事例集を活用し
て、生徒の評価に役立てる。
- ②①②小学校・中学校英語指導力等向上研修の実施
 - ・小中連携の視点をもった授業づくりの演習を通して、英語担当教
師が単元づくりや言語活動について理解を深められるようにする
(R6年度 杵西・藤津地区)。
- ①②教師の授業力向上に向けた取組の推進
 - ・外部有識者を交えた検討委員会を開催し、英語力向上に向けた
指導と評価の在り方について検討し、改善策について、各教育事
務所、市町教育委員会、教育センター、県教育研究会英語部会
と連携し、共通理解と共通実践を行う。
 - ・中学校におけるデジタル教科書を活用した授業動画の配信を行う
(SAGA Eコネクに掲載)。
- ②教師の英語力向上のための外部検定試験の実施
 - ・小学校・中学校英語担当教師を対象に、外部検定試験を年2
回実施する。
- ③佐賀県英語学習デジタル教材及びMEXCBTの活用の推進
 - ・CBT問題を活用し、生徒が個々の目標や学習課題に応じて学習
に取り組んだり、外部検定試験の受験意欲を高めたりする。

令和6年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

「指導と評価の一体化」に基づく授業改善とICTの活用による生徒の英語力向上
 ○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
 (R5 : A2以上 46.5%、B1以上 15.0% ⇒R6 : A2以上 50.0%、B1以上 20.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①求められる英語力を有する英語担当教員の割合が増加した。
(R4:89.6%⇒R5:94.9%)
- ②英語教育に関する小学校・中学校との連携について改善が進んだ。
 - ・高校と中学校との連携
(R4:25.0%⇒R5:43.8%)
 - ・高校と小学校との連携
(R4:6.3%⇒R5:12.5%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2 (英検準2級程度) レベル相当以上の英語力を取得、または有すると思われる生徒の割合が減少した。
(R4:48.5%⇒R5:46.5%)
- ②パフォーマンステストの実施割合が昨年から減少した。
(R4:80.3%⇒R5:46.6%)

2. 要因分析

- ①佐賀県英語指導力向上研修、また教育課程研究集会を通して、教員の英語力が生徒の英語力向上に影響を与えることを周知したことで、教員の意識を高めることができた。
- ②小中学校との連携強化に向けて、研究指定校による発表、またスーパーティーチャーによる公開授業への参加を促すことで改善が進んだ。

- ①②「CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得した生徒」の割合は38.9%であり、昨年の37.0%よりも1.9ポイント上昇したが、「英語力を有すると思われる生徒」の割合は7.6%で、昨年11.5%より3.9ポイント下回った。全体として、パフォーマンステスト実施の割合が減少し、指導と評価の一体化が不十分であることが要因である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②教員の指導力向上のための取組の推進
 - 英語指導力向上研修
 - ・指導と評価の一体化についての講義、協議
 - ・校内研修（公開授業、授業検討会の実施）
 - ・文部科学省主催オンライン・オンデマンド研修
 - ・小・中学校の公開授業参観
 - 教育課程研究集会
 - ・英語教育実施状況調査の結果分析
 - ・指導と評価の一体化について
 - 外国語指導助手指導力向上研修
 - ・JETプログラムに参加をしているALTと中・高等学校日本人教師を対象とし、外国人講師による講義、協議
- ①②生徒の英語力向上のための取組の推進
 - 「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定、公表および達成状況の把握を通じた指導・評価の改善
 - パフォーマンステスト事例集の活用
 - B1、A2レベルの英語力を身につけることを目的とした佐賀県英語学習デジタル教材、MEXCBTのCBTシステムの運用
 - 効果的なICT活用のために、「SAGA Eコネクト」におけるデジタル教科書を活用した授業などの動画配信

佐賀県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47	50		55		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	15	20		25		28		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	97	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	47	90		90		95		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	95	95	95		96		97		98		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	41	80		80		85		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	30	50		55		58		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	60	80		90		95		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	95	80	95		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	99	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	41	50		53		56		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	47	80		90		95		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	100	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100